

シンポジウムS3-7 アンケート調査による中国四国地方の減圧症 に対する高気圧酸素治療の現状

鶴田良介¹⁾ 松山法道²⁾ 藤田 基¹⁾

- [1) 山口大学医学部附属病院 先進救急医療センター
2) 山口大学医学部附属病院 ME機器管理センター]

【はじめに】

減圧症の診断と治療に関してはいくつかの問題点がある。軽症であればその経験に乏しいと他疾患との鑑別診断が困難である。重症であれば第1種装置を緊急避難的に使用してよいか迷う。

【方法】

中国四国地方の高気圧酸素 (HBO) 装置を有している施設に減圧症に対する治療について調査用紙を郵送し、FAXで回収した。配布施設は安全協会ニュース第39号を参考にした。

【結果】

回答を得たのは51施設中30施設 (59%) であった。過去10年間に疑い例を含む減圧症の症例を経験したのは9施設 (30%) で、その内訳は、10例以下5施設、11～20例2施設、21例以上2施設であった。21例以上を経験した施設はともに第2種装置を有し、20例以下の施設のうち2施設に第2種装置があった。あとは第1種装置を酸素または空気で加圧して再圧治療を行って

いた。治療経験のある施設のうち、減圧症の受け入れが可能と答えたのは、5施設で、緊急症例の受け入れ可能は6施設であった。減圧症の経験の有無を問わず緊急時に対応可能な施設は22 (73%) であった。減圧症の受け入れ可能との回答を得た施設の状況を表1に示す。

【考察】

HBO保有施設の約3分の1しか減圧症の患者を受け入れたことがなかった。第1種装置を有する施設では、減圧症の受け入れに関して施設ポリシーが異なった。これは経験した減圧症の重症度によることが考えられた。中国四国地方で第2種装置を有する施設は、広島県に3、香川県で1つであるため九州を含めた広域体制を整えるとともに、第1種装置での緊急避難的使用 (軽症なら可とする) のマニュアル作成が必要であると考えられた。また、減圧症の特異的治療である再圧治療を軽症患者にも行っていくためには、通常の救急医療体制とは別のHBO保有施設の広報と連携が必要である。

【結語】

重症度を加味した減圧症の中国四国地方のHBO治療の連携体制整備が必要である。

【謝辞】

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

表1 中国四国地方で減圧症患者の受け入れ可能施設の状況

No.	1種/2種	症例数/10年	HBO室窓口	専門医	認定技師	空気加圧
1	2	110	No	No	Yes	Yes
2	2	50	Yes	No	Yes	Yes
3	2	20	Yes	Yes	No	Yes
4	2	5	Yes	Yes	Yes	Yes
5	1	15	Yes	Yes	No	No
6	1	0	No	No	No	Yes
7	1	-	Yes	No	No	-